

## 廃棄物処理施設専門委員への説明会会議録

- 開催日時 平成20年9月19日午後2時から
- 開催場所 宮城県庁第1会議室
- 出席委員数 5名
- 会議内容

### 1 開会

司会：ただ今から、廃棄物処理施設専門委員への説明会を開催いたします。  
本日の議題は、日本製紙株式会社の最終処分場の1件を予定しています。  
開会にあたり廃棄物対策課技術副参事の藤原からあいさつを申し上げます。

### 2 あいさつ

(藤原副参事あいさつ)

### 3 出席者紹介、座長選出

司会：続きまして、本日の出席者の紹介をさせていただきます。  
ご出席の委員をご紹介します。  
菊地立委員でございます。  
香野俊一委員でございます。  
徳田昌則委員でございます。  
中澤廣委員でございます。  
福島美智子委員でございます。  
大月委員は、欠席されるとの連絡をいただいておりますが、別途、御意見をいただくこととしております。  
次に、資料の確認をさせていただきます。次第としてA4版4枚綴りのもの、事業者資料1部です。  
つづきまして、本説明会の座長ですが、事務局としては、徳田委員に座長をお願いしたいと考えております。皆様、いかがでしょうか。  
(異議無しの声)  
それでは、徳田委員に座長をお願いします、  
議事に移らせていただきますが、これかの進行は徳田座長をお願いいたします。

### 4 議事

座長：ただ今、座長に選出されました徳田でございます。まず、資料や進行方法について、事務局から説明願います。

事務局：(廃棄物処理施設専門委員への説明の法的位置づけ及び関係市町村からの意見について資料1及び資料2を用いて説明。)

座長：では、議題である日本製紙株式会社の最終処分場変更計画について、事業者から説明願います。

日本製紙：(別添説明資料に基づき変更計画(最終処分場埋立容量・地番の変更)の概要を説明)

座長： ただいまの説明につきまして、質問や意見をお願いします。

中澤委員： 最終処分場からの浸出水の漏洩についての観測ということで、観測井戸の地下水の塩素イオン濃度で判断しますが、実際浸出水の塩素イオン濃度は？

日本製紙： 浸出水は電気伝導度が1くらい。塩素イオン濃度が80から100。

中澤委員： 地下水が50以上になれば。

日本製紙： 地下水は現状では十分の一位で、電気伝導度で0.1から0.2くらい。塩素イオン濃度だと10以下。

中澤委員： 50以上になったのならば。

日本製紙： 今まで一度もなかったことがないが、3回連続で自主管理基準を超えたら、即座に対応と決めている。

中澤委員： 緊急時にだけ埋め立てということなので、頻繁に埋め立てていないので、浸出水の水質は良くなっているような感じがしたのですが。

日本製紙： そうですね。浸出水もかなり良くなっていて、ほとんど処理しなくても良くなっている。万が一遮水シートが破れたとしても、大きな問題になるような状況ではないと判断している。

中澤委員： 浸出水の塩素イオン濃度はそれほどは高くないので、塩素イオン濃度でピークが判断できるのでは。浸出液のは80ですか。

日本製紙： はい。一ケタ違いますので、はっきり破れていれば、わかると思っています。

座長： 搬入は緊急時だけで、当初からこの前提なのか。

日本製紙： 当初は、8号ボイラーが新設できて、その灰が県の公社で処分してもらっていたが、そこも限度がありますし、一部仮置きしていましたが、どうしようもないという状況で完全に造成される前にどんどん入れていたという状況で、平成4年までどんどん入れていた。ただし、石巻工場はゼロエミッションに取り組んでいたため、どんどん搬入が下がり、平成4年以降は完全にゼロである。

座長： それは、今のボイラーの。

日本製紙： そうですね。当初はセメントと原料が多かったのですが、今はいろんな方面にも。

座長： 今はどのくらい使っているのですか。

日本製紙： 今はゼロなのですが、ただ一昨年当社でバイオマスボイラーを立ち上げた時に、当初ボイラーの燃料である木屑とか RPF など燃料自体に塩素分が多くて、中間処理として使っているセメント屋から受け取り拒否をされたため、どうしようもなくて入れさせてもらった。ただ、先ほども申し上げた通り、中間委託先が天災等で操業できなかった時には優先的に入れさせてもらいますよと。そのような形で一昨年は入れたという経緯がある。

香野委員： 観測井戸。地下水と浸透水とはどこで採取するのか。

日本製紙： この資料の後ろのほう。

香野委員： 埋め立てる中にあるのですか。観測井戸の地下水は。

日本製紙： 観測井戸の地下水は入口のほうに、そのような設備がある方に1と2がありまして、3というのがもう山の方で破れても関係ないよという方にあるのですが。

事務局： 11ページ位では。

日本製紙： 11ページだそうです。

色をついた下のほうに、観測井戸1、2、3とあるが、1、2が処分場の入り口で、排水処理設備とか沈殿槽があるところ。ちょうど遮水シートが破れると、この井戸水のところに水が入ってしまうというイメージで考えてもらえたらいいと思います。

香野委員： もしシートが破れた時は対策とのことだが、掘り起こせるのか。

日本製紙： 状況によって、施工方法は違うと思うので、至急協議して対応する。

香野委員： 今までないと思うが、掘り起こすことなどできるのか。

日本製紙： 破損場所を見つけて、補修できるかできないか判断する。ケースバイケース。詳細までは詰めていない。

香野委員： 可能性は低いと理解してよろしいですね。

日本製紙： 浸出水は処理しなくても問題ないレベルまで落ちてきている。

菊地委員： 現実的に、新しく搬入して埋め立てが進んでいくという状況ではないのか。

日本製紙： ないです。

菊地委員： 現状は上に土がかぶさっているが、表面はどうなっているのか。草地か何かか。

日本製紙： 覆土、草地ではなく、シートがかぶさっている。

菊地委員： シートが重なっているのか。

日本製紙： そうです。

菊地委員： 一番近い民家まではどのくらいあるのか。

日本製紙： 2 km程度では。

菊地委員： 学校は2 km以内にはないが、民家まではどのくらいあるのか。

日本製紙： 少なくとも1 km以上はあるのでは。

入口からメイン道路まで何百m。写真の通り、入れられるところはここまでしかない。

座長： 残余容量が7万m<sup>3</sup>ですか。

日本製紙： そう。

香野委員： (写真の) 灰色のシートは。

日本製紙： 遮光シートである。遮水シートのところに遮光シートをかぶせている。

座長： これからやるものは、そのうえにシートがあつて二重になっているのか。

日本製紙： そうではない。一番下に遮水シートという形で浸透シートがありまして、集水管とかが全部集まっている形になっている。

座長： こういうのは世の中にたくさんあるが、シートの寿命は

日本製紙： 後で回答させていただきたい。

香野委員： ここでは破れたことがないとのことだが、破れた事例は。

日本製紙： ちょっとわからない。測定データとして、差はあるが、観測井戸の対象水については一定の値を保っており、破れていないと言っているだけで。

香野委員： 遮水シートはどういうもの？ゴムか。

日本製紙： あとで回答する。

中澤委員： 最近局所豪雨が多いが、最近浸出水が集水施設の容量を超えたことはあるか。

日本製紙： 処理ができずにオーバーフローしたようなことは聞いていない。5 m<sup>3</sup>/日 以下。43

5 m<sup>3</sup>の容量があるので、かなり余裕がある。

中澤委員： 最近ゲリラ豪雨とか、雨が多いので。

日本製紙： 雨水が多ければ薄まるので問題ない。

中澤委員： 希釈して濃度が下がるというのは、考え方としてはまずい。

日本製紙： 通常の量の100倍近くはあるので、処理能力としては問題ないということ。

菊池委員： 覆土する土はどこから持ってきているのか。

日本製紙： 地元の大塩土で、処分場とは別の場所から購入している。

香野委員： 覆土した上に持ってくることもあるのか。

日本製紙： 何回も繰り返すこともある。

座長： それでは御意見や御質問もないようなので、これで質疑は終了とします。引き続き事務局から。

事務局： （説明後）

座長： ひとつ、仕事の範囲から外れるが、今回の変更について、計画して作ってもう一度測ったら容量が違っていたという話である。このようなことはよくある話になるのか。廃掃法の改正を理由としてよくある話になるのか。それとも特殊な話なのか。

日本製紙： 処分場をつくった当時と今とは違う。今は許可制であり、管理型でハコを作ってからなので、容量がわかる。一方当時は届け出のみでまずかったといえまずかったのだが、そういうことでやった。

座長： 勉強になりました。

## 5 閉会

司会： 以上をもちまして、廃棄物処理専門委員に対する説明会を終了いたします。委員の皆様には、長時間にわたりご審議いただきまして、どうもありがとうございました。